

# 令和元年度第1回鎌ヶ谷市総合基本計画審議会 会議録

|        |   |
|--------|---|
| 日 時    | 令和元年10月4日（金）15時～16時30分  |
| 場 所    | 鎌ヶ谷市役所5階 501・502会議室   |
| 出席委員   | 宮脇淳委員、北原理雄委員、菅野勝利委員、山崎明委員、徳田訓康委員、<br>篠田繁委員、御代川泰久委員、竹内久子委員、野田正治委員、<br>奥村さかえ委員、榎本美紅委員、山下裕委員、熊谷貴宏委員、<br>山中広和委員 |
| 欠席委員   | 井手勝則委員、猪野茂樹委員、吉田誠委員   |
| 市出席者   | 山崎総務企画部長、渡邊市民生活部長、菅井健康福祉部長、<br>高岡都市建設部長、笠井生涯学習部長、松本消防本部長、<br>葛山総務企画部次長                                      |
| 事務局    | 小笠原企画財政課長、小暮主査補、能登谷主任主事   |
| オブザーバー | 株式会社富士通総研（若生、鬼澤）  |
| 記 録    | 小暮  |
| 傍 聴 者  | なし  |

## 1 会議録署名人の選出について

審議会委員名簿の中から、会長及び副会長を除いた順番として、山崎委員及び徳田委員に決定した。

## 2 鎌ヶ谷市基本構想（案）について

（事務局）

資料に基づき、鎌ヶ谷市基本構想（案）の諮問及び概要の説明を行った。

（宮脇会長）

補足説明すると、事前に市から資料の送付があったが、より議論がし易いように、当日配付資料として、鎌ヶ谷市基本構想（案）を配付した。

本日は、この案に基づいて意見をいただきたいが、会議終了後も気付いた点などがあれば、10月15日（火）までに市へ意見を提出いただきたい。

次に、本審議会の役割であるが、市から示された基本構想（案）について、意見を述べることである。基本構想を策定するのは市であり、最終的に決定するのは、議会の承認が必要である。

なお、意見については、基本構想又は基本計画への意見に分かれると思うが、委員の皆様がどちらの意見なのか判断することは難しいことから、意見の整理は、市が行うこととし、本日は忌憚のない、意見をいただきたい。

（I委員）

地球環境について心配している。例えば最近の台風被害などは、地球温暖化の影響と言われており、このような災害は、また襲うのではないかと予想している。

そのことを考えると、災害に強いまちの視点が我々には必要ではないかと考える。  
そのための具体的な取組として、北千葉道路など災害に強い道路の整備を進めていくとともに、並行して、北千葉道路に繋がる南北の都市計画道路の整備を先行して進めていく必要がある。

また、災害時のエネルギーをどうするかも問題であり、自分たちの持っているエネルギーで、ある程度生活できるようになることが必要である。

基本構想自体はこれで問題ないと思うが、より具体性をもって進めることが必要となるのではないか。

(宮脇会長)

事務局に確認したいが、災害に強いまちというのは、基本構想(案)のどこで読み取ることをイメージしているのか。

(事務局)

基本構想(案)の6頁 基本目標3「自然と調和した 災害に強いまち」の2段落目に、自助、共助、公助の連携による市内全域の防災力の向上や消防・救急体制の充実の推進などを掲げている。

(F委員)

新鎌ヶ谷駅周辺は、市役所、イオン、鎌ヶ谷総合病院などが建設されるとともに、新鎌ヶ谷駅からは、船橋市、柏市、松戸市、成田空港、羽田空港のどこにでも行けるという、交通の利便性が高いことが挙げられる。

第2章「鎌ヶ谷市が目指す都市将来像(都市像)」にも、そのことは少し記載されているが、市のPRを考えると、交通の利便性が高いことを、もう少し打ち出し、「静かな副都心鎌ヶ谷」くらいのキャッチフレーズでも良いのではないか。

(L委員)

基本理念の「みんなで作るふるさと 鎌ヶ谷」であるが、“みんなで作る”というフレーズの中に、市民が主役や、地域の力の意味合いが入っており、とても良いと感じた。

一方、今鎌ヶ谷は発展著しいまちであり、“みんなで作る鎌ヶ谷”に、これから新しいものを発展して作っていくというイメージが足りないのではないかと感じた。

例えば、誇りと愛着を持つや魅力あるなど、発展していくようなイメージの言葉が付くと、なお良いと考える。

(K委員)

基本理念の“みんなで作るふるさと 鎌ヶ谷”についてである。

私自身、行政と民間と市民と一緒に協力して作るイベントやまちづくりを開催しており、先日、約3,700人を動員する子育てフェスタを実施した。

その中で思うこととして、みんなで作ると言いながら、実際は行政主体か、市民主体かによって、出来ることが限られている。もっと、こうした方がより良いものになるのに、行政の昔からの決まりが邪魔をしていると感じている。

市民と行政が協力し合うことで、大きなもの出来ると思うので、基本構想を作る

際は、昔からの決まりがあるから考えないのではなく、まちを活性化させていくため、行政の決まりを見直ししていただき、協力して、お互いが楽になるようなシステムづくりを考えていかないと、一緒に作るのは難しいのではないかと考える。

(N委員)

第2章「鎌ヶ谷市が目指す将来の姿（都市像）」について、最後の段落に“市内外の人々にとって、住みたい、住み続けたい、訪れてみたいと思えるまちの実現を目指します”と記載されているが、具体的な取組を今後どのように具現化していくかを詰めていただきたい。

例えば、流山市は、マーケティングの発想で子育て世代を呼び込んでおり、人口を若返らせている。鎌ヶ谷市も専任の職員を配置し、子育て世代の転入促進などの市の人口構成を変えるための具体的な取組を基本計画に盛り込んでいただきたい。

(F委員)

1点目として、事前の送付資料1の3頁、「第3章 基本目標」に5つの分野が書いてあるが、当初は6つの部会で議論していたかと思う。

残りの一つは、「第4章 実現可能な基本構想」に移行したと考えるが、これは部会で出されたことについて、行政が財政で縛りかけたのかと思ったが、いかがか。

2点目として、私は生涯学習審議会の会長であるが、基本目標5で“文化スポーツ”とまとめられているが、どのようなスポーツなのか。通常は、芸術、文化、スポーツなどに分けられるので、可能であれば、芸術文化・スポーツ・生涯学習に修正して欲しい。

3点目として、生涯学習のほか、レクリエーションの文言を入れて欲しい。

(事務局)

1点目の意見については、6つの部会で議論したが、行財政運営については、基本目標全体に関わるものとして、全体を網羅するものであることから、基本目標からは分けて、第4章に設定したところであり、財政的なこととは関係はない。

2点目の意見について、文化とスポーツをまとめた政策として整理したいという想いがあり、“文化スポーツ”という言葉はない。この標記の仕方については、検討させていただく。

3点目の意見について、レクリエーションゾーンとして、公園や北海道日本ハムファイターズなどを設定していくことが考えられるので、基本計画の中で整理させていただきたい。

(H委員)

基本構想（案）の基本目標3の6頁中段に、“迅速かつ的確な消防活動を遂行するため、消防・救急体制の充実を推進します”と記載されているが、長年、消防の定員は割れている。

これからも、災害が非常に多く発生すると考えているので、消防・救急体制の充実について、ぜひ検討していただきたい。

(松本消防長)

人員につきましては、市の定員適正化計画の中で定めており、類似市と同様な人員を確保しているが、国レベルでは、どの市も人員を確保できていないのが現状である。

人員を急激に増加することは難しいが、徐々にではあるが、増員に向け、関係課と協議をしている。

(C委員)

第2章「鎌ヶ谷市が目指す将来の姿（都市像）」であるが、事前に送付された資料を読んだとき、現行の都市像「緑とふれあいのある ふるさと」の“緑”だけは残して欲しいと思っていたが、“緑”の言葉が入っていて、安心した。

“ふれあい”については、“人”に含まれていると理解し、現行の“緑”と“ふれあい”に加え、“産業が共生する”が加わったものであり、個人的には、とても良いフレーズであると思う。

もう一点、もう少し災害のことについてアピールして欲しい。先月、千葉県を襲った第15号の台風では、鎌ヶ谷市も被害を受けたが、千葉県南部のような強い風が発生した場合、鎌ヶ谷市でも大きな被害が発生すると思う。

そのことを考えると、災害の言葉があまりにも少なすぎる印象にある。鎌ヶ谷市は地震に強いまちでもあるので、鎌ヶ谷は災害に強いまちであることを盛り込んでいただきたい。

(F委員)

“ふれあいのまち”として、レクリエーションにより触れ合えることが大切である。

高齢化社会を迎える中、レクリエーションができる環境を作りながら、地域でできることを言葉として入れていただきたい。

これからは、地域の担い手を作り、それぞれ繋がっていくことが大事であり、人と人、人と行政の繋がりが大切である。

(事務局)

現行の基本計画でも、施策の一つに「生涯スポーツ・レクリエーションの振興」が入っているので、どこに入れるかは任せていただき、検討させていただく。

(B委員)

第3章は、基本目標ごとに1頁ずつ使っている。

一方で、第4章は事前に送付された資料では4つの方向性が掲げられており、本日配付された基本構想（案）を見ると、その方向性に沿って、2～3行ずつしか記載されていないが、第4章の記載はこれで終わりか。

(事務局)

基本構想で、第4章はこの記載で整理させていただき、基本計画では、それぞれの施策ごとに、行財政運営や地域コミュニティなど、詳細に書かせていただく。

(B委員)

意見の1点目として、第4章の記載は、このままではあまりにも寂しいと感じる。

例えば、基本理念の「みんなでつくるふるさと 鎌ヶ谷」であるが、市民協働や地域コミュニティが、みんなでつくるに対応してくるかと思う。

しかし、基本目標の中に、“みんなで作る”に具体的に対応する記載がないので、第4章の中に4つの方向性について、ある程度イメージできるような記載をお願いしたい。

また、記載する順番として、市民の目線から考えると、“行財政運営”が一番後ろであり、“市民との協働”や“地域コミュニティ”が、前に来るのかと思う。

意見の2点目として、第2章「人と緑・産業が共生する 未来へ広がる 鎌ヶ谷」について、フレーズはこれで良いと思うが、“産業”についての記述がなく、このままではよく分からない。

例えば、北千葉道路が整備され、物流の拠点が出来ると、産業がもっとイメージ出来るような記載内容にしてほしい。産業がないと、働き場所が無いので、若い人が市外へ転出してしまうので、そのあたりを検討いただきたい。

3点目として、基本目標4では、都市計画道路の整備を行うとの記載があり、都市基盤整備を行う上で重要な事業である。

都市計画道路は車両交通主体の計画であるが、人と人との交流や賑わいをイメージすると、人間のための道路が重要であり、歩行者の空間を整備していくことは、アピールする大きな手段になると考える。

そのため、基本構想には具体的に記述出来ないと思うが、基本計画にどう記載するのかを具体的にイメージした中で、基本目標4に記述していただきたい。

(I委員)

基本構想は12年間の計画期間であるが、都市計画道路の整備はこの期間内に入ってくると思う。

基本的な道路整備は、緊急の課題であり、これが完成することで、歩道も整備され、まちも発展していく。基本的な街路が整備されないと良い街にならない。

そのためにも、基本構想の中には、ぜひ都市計画道路の整備を実現していくという言葉を入れて欲しい。

(N委員)

ITや通信の発展により、この10年間で世の中は大きく変わってきている。

国と国、都市間競争でも、ITや通信は、非常におおきなウエイトを占めていると感じている。

欠席した吉田委員からも意見が出ているが、今後の12年間を見通す中で、ITや通信について、市の基本構想に記載しなくて良いのかと考える。

(事務局)

AIやICTについて、部会の議論の中では、入れる方向で動いてはいたが、記載しないこととなった。

AIやICTの活用については、基本構想(案)には具体的に記載しないが、その活用については、行財政改革推進プランの取組の一つにも掲げており、行財政運営を進めていく中で、必要な取組として認識している。

(E委員)

第3章 基本目標1「保健・福祉」についてであるが、今、地域の問題に対して、皆が助け合い、支え合あいながら解決しているシステムがある。

共に生きるということ、住民に強く意識してもらうためにも、基本目標の中に、共生や協働などの言葉を入れて欲しい。

(F委員)

基本目標2の教育について、これから新しい学習指導要領が始まるが、鎌ケ谷市の教育はどうかと考える。子育てについても、今は核家族化しており、大変な時代である。

子どもは、これからの日本を支えていく宝であり、鎌ケ谷市は子どもを育てていく環境が違うのだということが見えてくれば、より良いと考える。

(K委員)

基本目標2「子どもの生きる力をはぐくむまち」のフレーズは、素敵だと思った。子育てについて他市を見た時、生きる力に力を入れている自治体は少ない。

私自身も、子どもが主体的に考え、判断し、行動できるよう、生きる力を育てていくことはとても重要であると考えている。

全体的に、子どもに視点が当たっているが、子育てには保護者や地域の方も入ると思っている。

基本目標のフレーズはこのままで良いが、説明文の中に子育てする方についての記載があると、保護者が見ても、自分たちのフォローもあるのだと、安心できると思う。

(M委員)

1点目として、“ふるさと”という言葉についてである。

新しいまちづくりの基本理念「みんなでつくるふるさと 鎌ケ谷」であるが、ふるさとに修飾語が付いていないので、私のような鎌ケ谷出身ではない者にとっては、何となく排除されているような印象を受けるように思う。

そのため、例えば“心のふるさと”など、皆が受け入れやすい言葉にさせていただくよう検討いただきたい。

一方、以前、市民アンケートの結果を見た時、市民は産業を発展させたいという想いよりも、静かな街や暮らしやすい街を重視していると感じた。従い、“ふるさと”という言葉を使うこと自体は、市民の想いにも合っており、非常に良いと思う。

2点目として、吉田委員の意見に、“鎌ケ谷市は都心部、地方でもない、郊外都市としてのあり方を再考し”と書いてあったが、そのとおりであると思う。

鎌ケ谷市は、柏市、船橋市、松戸市などと比較したとき、隣接自治体に後れを取っている印象が若い人たちにはあると思う。

今後の人口減少は止めることはできないが、その対策として、外国人を受け入れるなどの記述を入れても良いのではないかと考える。基本構想(案)には、「市内外の人々」にとって、住みたい、住み続けたいとは書いてあるが、外国から来る人はあまり念頭に置かれていない印象を受けたので、外国人にやさしいまちなどの文言を加えてはどうか。外国人に住みやすい街にすることは、国際化、外国語教育の強化、とい

った他の課題に対する対策としても間接的に役立つと考える。

(事務局)

市の外国人は、1,600人ほどであり、年々増加している一方、市内に外国人の研修所があり、転出も多い状況である。

市の市民会館内に多文化共生推進センターがあり、多文化共生の推進については、総合基本計画全体の考えの中にある。

具体的な取組については、多文化共生の施策の中で考えていきたいと考えている。

(L委員)

1点目として、第2章の“人と緑・産業が共生する 未来へひろがる 鎌ヶ谷”であるが、内容は問題ないと思う。

しかし、中点(・)は同じような用語を結びつける場合に使用するので、人、緑、産業を並列的に記載する方法として、この記載方法が良いのか、気になる。

また、“人と緑・産業が共生する 未来へひろがる”では、“～る”続いてしまうので、“～共生し”の方が良いのではないか。

2点目として、第3章の基本目標4「都市基盤整備・産業」について、「緑あふれる」とあるが、この言葉には、自然環境のイメージがある。一方、基本目標3では、自然と調和した～との説明が入っているので、自然のことはこちらにあれば良いのではないかと思う。

その代わり、鎌ヶ谷市は、鉄道も複数通っており、北千葉道路も整備されることを踏まえると、現行の基本目標にある“交流拠点都市”の言葉を基本目標の4に残した方が良いのではないか。

3点目として、先程意見があったAIとICTについて、近年自治体でAIを使い、夜間の問合せ対応や保育所入所のマッチングなどが行われている。

AIやICTは、基本計画で記載するとの説明であったが、今後AIを使った市の業務は増加することから、基本構想を実現する手段の一つとして、第4章に頭出ししておいても良いのではないか。

(I委員)

言葉の言い回しについて意見があったが、第2章の人と緑と産業について、これらは共生するのかが疑問である。人と緑は共生するが、人と緑と産業が共生する社会はあまりイメージ出来ない。

また、基本目標3では、自然と調和したまちが災害に強いまちになるのか、基本目標4の都市基盤整備と産業が一緒になるのかも疑問である。

さらに、基本目標5については、言葉使いとして、芸術文化とスポーツは切り離すべきではないか。

(F委員)

産業の概念であるが、第2次(工業)をイメージするが、ここでは第1次(農業)や第3次(サービス)についても、入っていると捉えてよいのか。

基本構想には、第1～3次が全て入っているという認識を統一しておいた方が良い。

(D委員)

私は20～30年前に、消防団に所属し、消火活動や夜回りをしていた時、行き止まりが多いと感じた。最近、分譲地が沢山出来てくるが、ほとんどが行き止まりとなっている。

都市計画道路の整備も必要であるが、防災の観点から、分譲地を増設する際は、行き止まり道路をなくすような行政にしていただければ、ありがたい。

(宮脇会長)

それでは、次に今後のスケジュールに移りたいと思う。

総合基本計画全体の今後の予定について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料に基づき、スケジュールを説明。

(宮脇会長)

今回の会議は、10月28日(月)に予定されているが、これまで委員の皆様から出た意見と10月15日(火)までにいただく意見とを踏まえ、事務局で検討し、基本構想を再整理していただきたい。

また、本日は今後基本計画を策定する上での意見も沢山いただいているので、基本構想ではないが、市として踏まえる意見については、箇条書きし、整理して、共有させていただきたい。

本日配付した基本構想(案)について、これからパブリックコメントを実施するが、10月28日(月)までに出てきた意見については、審議会で共有することは可能であるか。

(事務局)

審議会の意見とパブリックコメントの意見を整理して、資料として配付させていただく。

(宮脇会長)

10月28日の審議会では、パブリックコメントの途中であるが、市民からどのような意見が出てきたかを整理し、共有いただきたい。

それでは、ほかに意見が無ければ、本日の会議はこれで終了させていただく。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和元年11月1日

氏名

山崎 明

---

氏名

徳田 訓康

---